

三井金属鉱業株式会社（5706）

2019年3月期

第2四半期決算説明会

2018年 11月 12日

■ 18年業績予想

	2015年 実績	2016年 実績	2017年 実績	2018年 業績予想 (11/9)	2018年 業績予想 (8/10)
売上	4,506億円	4,363億円	5,192億円	5,067億円	5,220億円
営業利益	111億円	385億円	495億円	245億円	440億円
経常利益	△113億円	310億円	112億円	240億円	410億円
親会社株主に 帰属する当期純利益	△209億円	187億円	△7億円	140億円	260億円
フリーキャッシュ フロー	240億円	△141億円	120億円	90億円	246億円
設備投資	284億円	377億円	405億円	422億円	422億円
自己資本比率	35.0%	33.5%	32.2%	35.8%	36.2%
NetDEレシオ	1.03	1.10	1.11	1.00	0.88

■ 18年度上期決算

マテリアルの知恵を活かす

● 18年度上期売上・経常利益 対前回見込 (8/10)

(単位：億円)

	18年度上期		18年度上期見込(8/10)		差異	
	売上	経常利益	売上	経常利益	売上	経常利益
機能材料	868	117	870	124	△2	△7
金属	844	△31	840	△37	4	6
自動車部品	505	19	500	24	5	△5
関連	614	21	590	12	24	9
その他調整	△325	△16	△300	△13	△25	△3
合計	2,506	110	2,500	110	6	0

● 18年度上期売上・経常利益 対前年同期

(単位：億円)

	18年度上期		17年度上期		差異	
	売上	経常利益	売上	経常利益	売上	経常利益
機能材料	868	117	806	140	62	△23
金属	844	△31	822	0	22	△31
自動車部品	505	19	492	23	13	△4
関連	614	21	599	28	15	△7
その他調整	△325	△16	△295	△15	△30	△1
合計	2,506	110	2,424	176	82	△66

■ 18年度通期見込

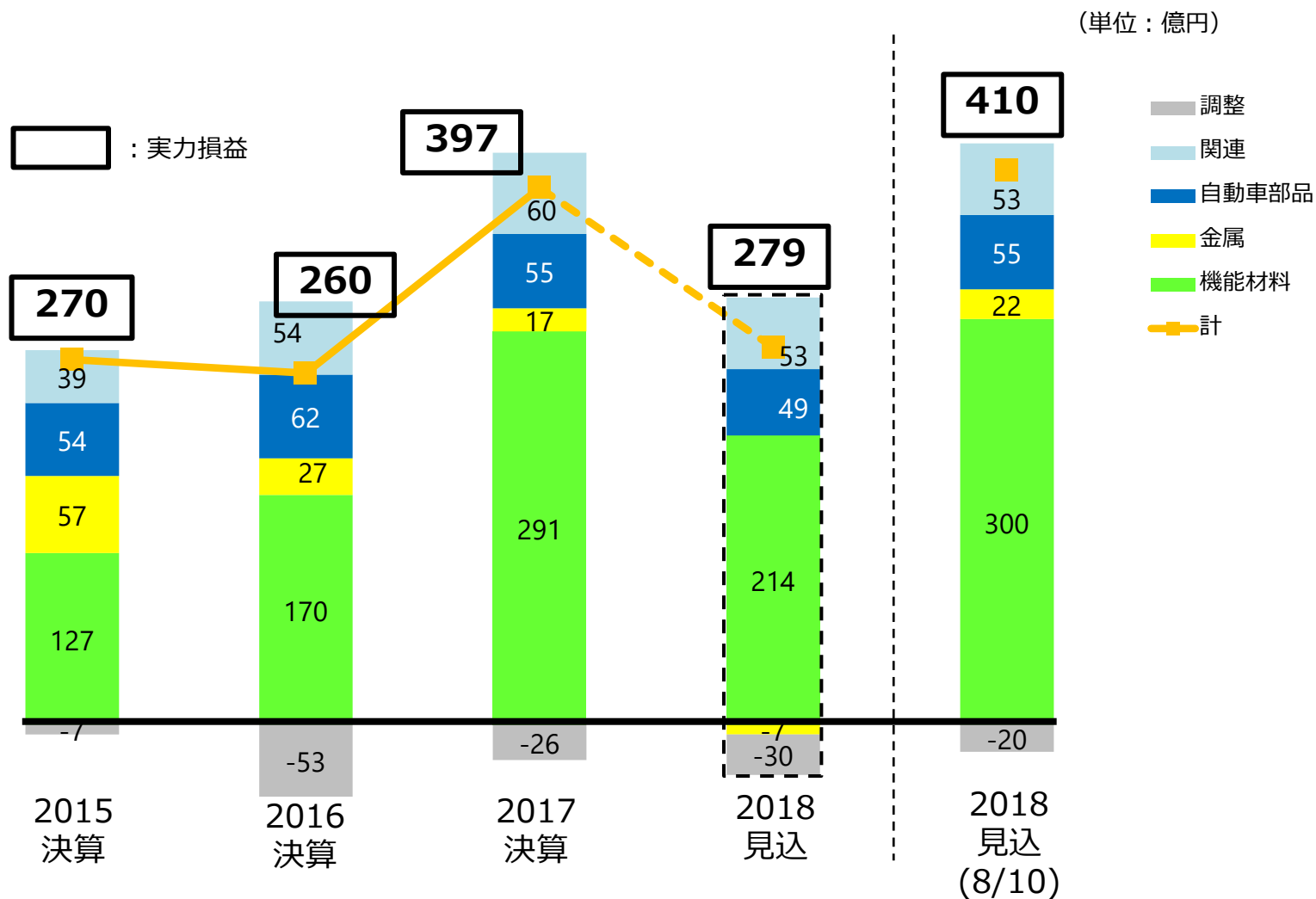
● 18年度通期見込 対前回予想 (8/10)

(単位：億円)

	18年度通期見込		18年度通期 (8/10)		差異	
	売上	経常利益	売上	経常利益	売上	経常利益
機能材料	1,725	219	1,800	300	△75	△81
金属	1,672	△48	1,810	22	△138	△70
自動車部品	1,027	49	990	55	37	△6
関連	1,287	50	1,260	53	27	△3
その他調整	△644	△30	△640	△20	△4	△10
合計	5,067	240	5,220	410	△153	△170

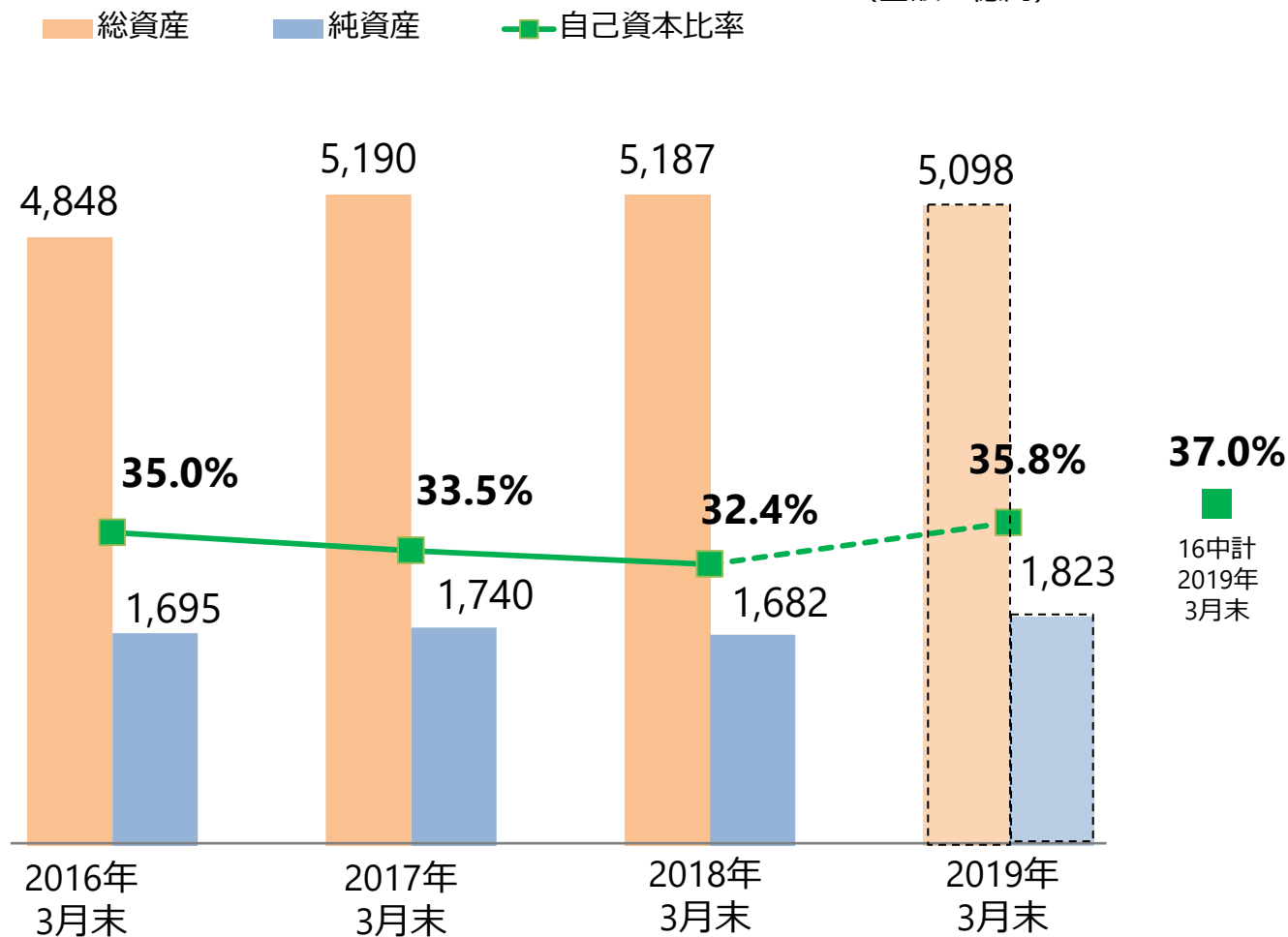
● 実力損益推移

(在庫要因、カセロネス減損除く)



● 自己資本比率推移

(金額：億円)



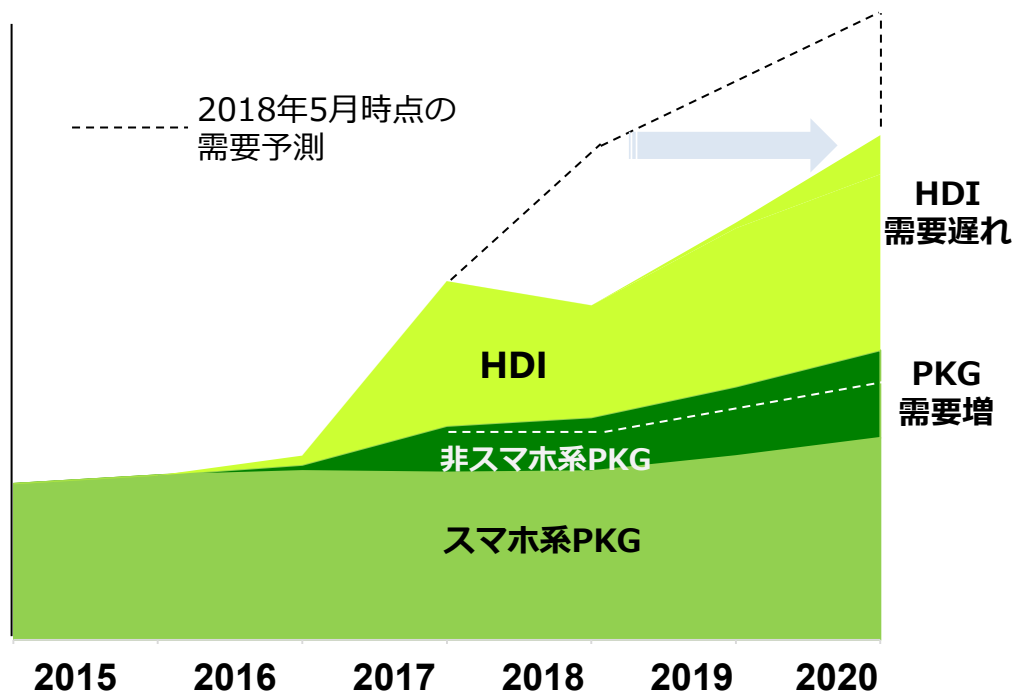
■ 18年度プレスリリース案件

セグメント・事業部	プレスリリース案件	備考
自動車部品	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>ドアラッチ等自動車部品の製造・販売のための支社設置と新会社設立を決定</u> - 欧州域内のビジネス拡大に向けて - 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 7/10 プレスリリース
機能粉	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>MLCC[※]向けアトマイズ銅粉の生産体制を増強</u> - 神岡の能力増強と彦島で新工場建設し、生産能力約50%増強 - 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 8/2 プレスリリース
セラミックス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電子部品焼成用セラミックストレー「セラメッシュ™」開発 - 60%の軽量化により熱量軽減で省エネにも貢献 - 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 8/28 プレスリリース
研究開発	<ul style="list-style-type: none"> ・ 株式会社ダイヘンとの業務提携に関するお知らせ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 9/12 プレスリリース
触媒	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>四輪車向け排ガス浄化用触媒の生産能力増強の完了と本格稼働の開始について</u> ・ <u>触媒事業のインド製造・販売子会社の二輪車向け生産能力3割増強について</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 10/11 プレスリリース

※MLCC : Multi Layer Ceramic Capacitor
(積層セラミックコンデンサ)

2018年5月時点の需要予測（従来予測）から、HDI向けは需要増の遅れを織り込み、伸びは鈍化の見通し。

MicroThin™の需要予測（2018年11月時点見通し）

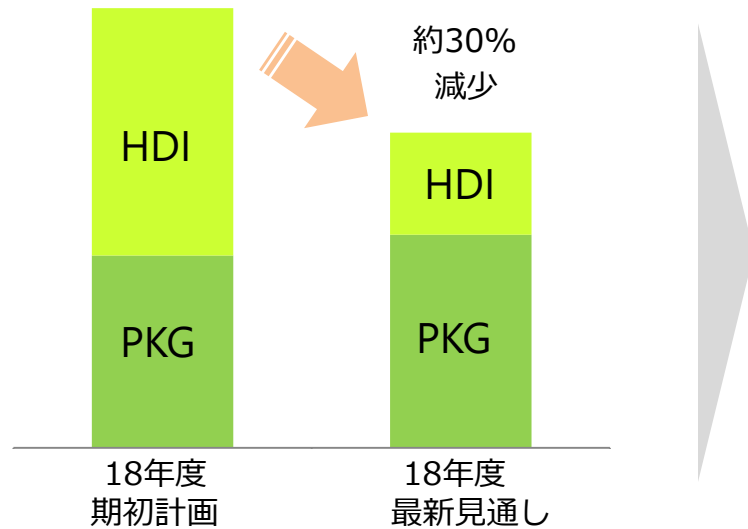


- HDI向け：
長期的には増加トレンドも、
想定より遅れる。
- PKG向け：
非スマホ系PKG（外部メモリー、
※GPU等）の需要が2017年から
顕著に増加。
今後も堅調な伸びが見込まれる。

※GPU : Graphics Processing Unit
(画像処理用演算装置)

- ・ HDI : High Density Interconnect
(高密度実装基板)
- ・ PKG : パッケージ基板

HDI向けMicroThin™の乖離要因



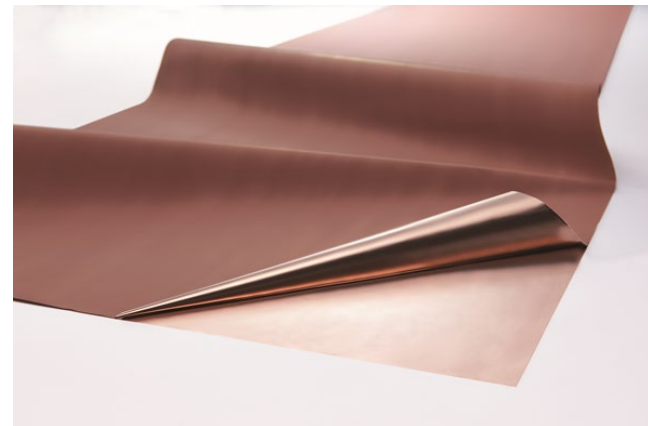
- 高機能スマートフォンの販売不振に伴う生産計画変更
- MicroThin™採用層数の減少
- ユーザーでの基板取り数増加
- 在庫調整

※ 顧客の歩留改善は織り込み済み

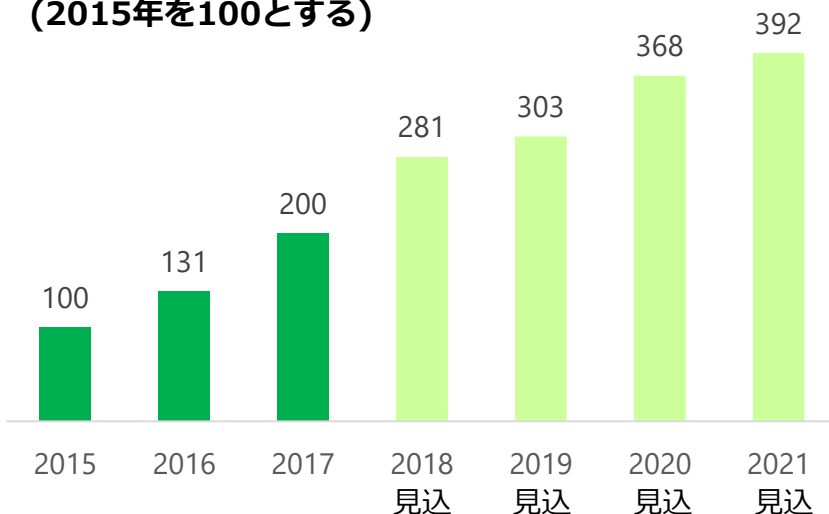
MicroThin™拡販の取組み

- HDI向け：
ミドルエンドの採用増を促進
- PKG向け：
非スマホ系需要増を取り込む
(外部メモリー、AI技術に関連するGPUなど)

当社の極薄銅箔 MicroThin™

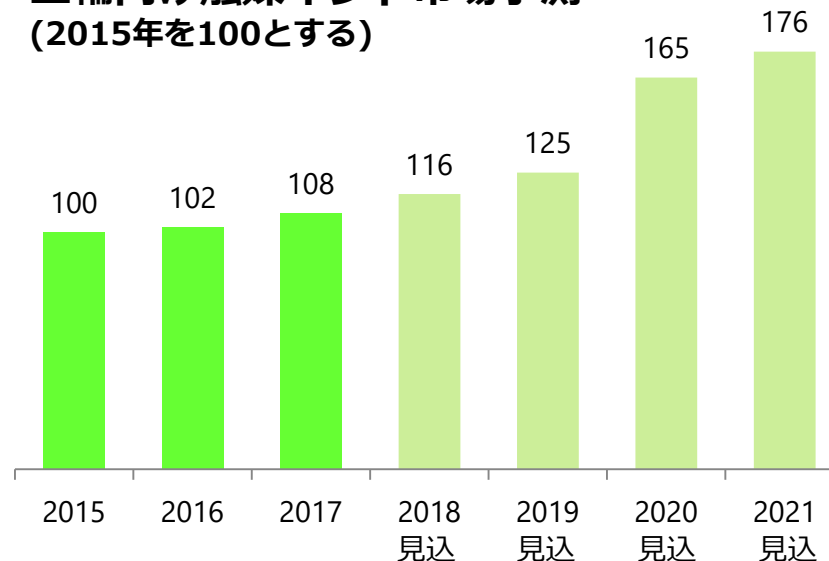


四輪向け触媒販売見込み (2015年を100とする)



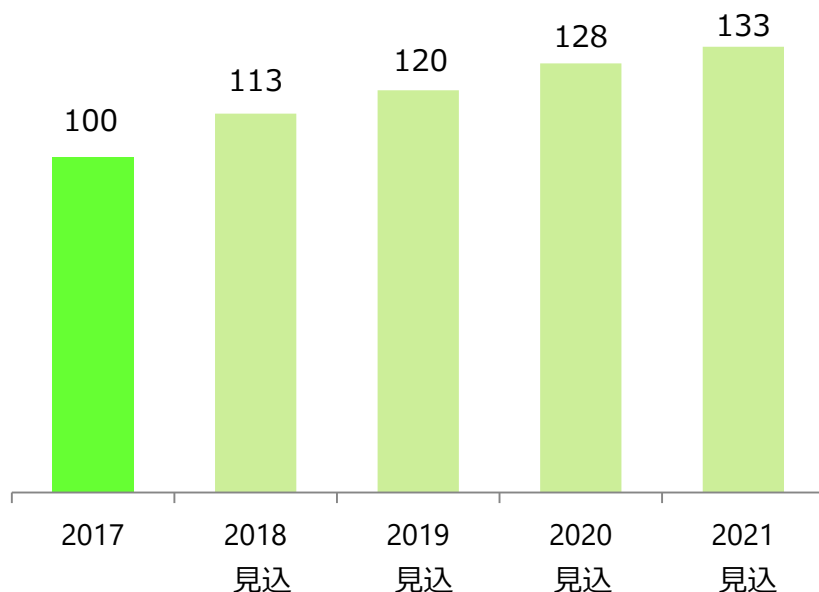
- 四輪向け販売量は採用車種の堅調な販売、並びに採用拡大に伴い増加中。
- 生産能力の増強は16中計通り進捗。増強ラインは本格稼働開始済。(2018年10月11日プレスリリース)
堅調な販売見込みを受けて、更なる生産能力増強を検討中。

二輪向け触媒インド市場予測 (2015年を100とする)



- インドの生産拠点 Mitsui Kinzoku Components India Pvt. Ltd.の二輪向け生産能力3割増強を決定。(2018年10月11日プレスリリース)
- 二輪向け触媒市場を牽引するインドの需要増に製造・販売でタイムリーに対応できる体制を構築していく。

MLCC向け銅粉市場予測 (2017年を100とする)



- MLCCの需要拡大、中でも車載向けの増加によりMLCC向け銅粉の数量増加が見えてきた。
- 将来の更なる数量増加に備えた生産体制の増強を決定。

生産体制の増強について

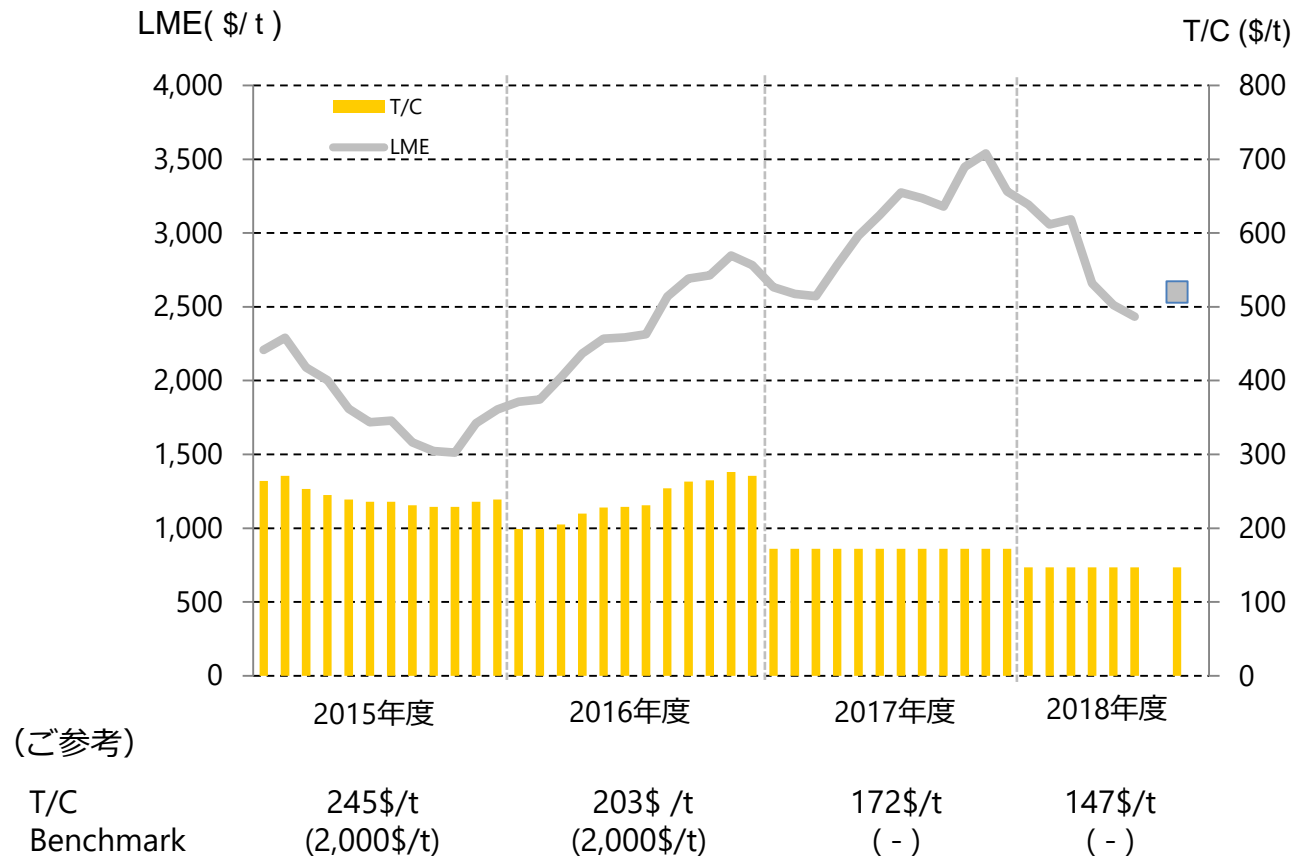
上記について、2回プレスリリース実施。(①2018年2月、②2018年8月)

場所	生産方法	生産能力	稼働開始時期
① 彦島	湿式還元法	約40%増加	2018年9月
② 神岡および彦島	アトマイズ法	約50%増加	神岡：2019年4月 彦島：2020年4月

所在地：彦島 (山口県下関市)、神岡 (岐阜県飛騨市)

今後の鉱石需給緩和により、需給バランスは2016年から続いた供給不足から供給過剰へ転じる見込み。

● 亜鉛価格とT/Cの推移



■ 金属セグメント - 銅統括事業部（カセロネス銅鉱山）

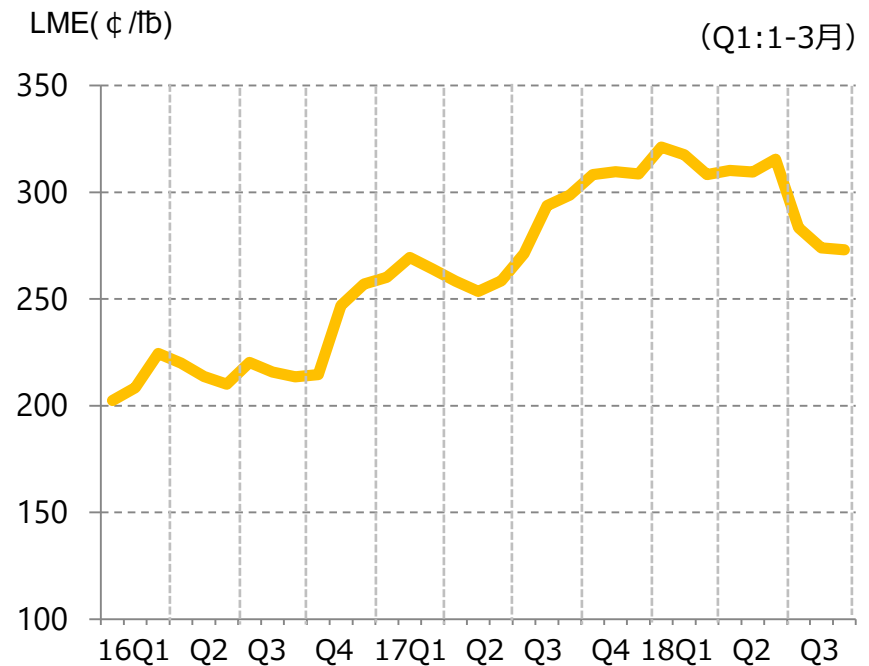
マテリアルの知恵を活かす

2018年度は天候トラブルもなく、銅生産量は改善傾向が見られる。
今後は更なる操業安定化や生産改善を進め、継続的なコスト削減に取り組む。

● 銅純分ベース生産量推移 (Q1:1-3月)



● 銅価格推移 (2016年1月-2018年9月)



足元の事業環境

米中貿易問題により、自動車部品事業を取り巻く環境は厳しさを増している。

- 鋼材価格の上昇
 - 米国向け輸出製品への関税
 - ・ 中国から米国への供給部品の一部を米国現地化
 - ・ メキシコ・タイなど第3国から供給
- 関税負担の極小化を検討

欧州市場への拡販に向けた取り組み

- フランスパリ市郊外に欧州支社を設立
およびモロッコ国内に新会社設立。
(2018年7月10日プレスリリース)
- モロッコ拠点は2020年1月操業開始予定。
まずモロッコに進出している欧州OEMへの販売を目指す。

サイドドアラッチ (例)



グローバルのサイドドアラッチシェア 約15%

三井金属アクト生産販売拠点 ●生産販売拠点



・モロッコ含め9カ国11拠点に展開予定。

本資料に記載されている将来の見通しに関する記述は、様々な既存のリスク、未知のリスク、不確定要因等を伴っているため、実際の事業環境・事業活動は、これらによる影響を受けることとなります。したがって、将来の見通しに関する記述内容またはそれによって示唆されている内容が、実際に生じる結果と大きく異なる可能性もあります。

本資料は、将来の見通しに関する記述の中で使用されている目標、想定、期待、予測、計画、評価等の情報が正確である、または将来その通りになるということを、当社が保証したものではありません。

将来の見通しに影響を与うる潜在的リスクや不確定要因については、当社の有価証券報告書またはホームページの「事業等のリスク」の項目に記載されておりますが、潜在的リスクや不確定要因がその項目ですべて網羅されている訳ではありませんので、その旨ご留意ください。

本資料は、株主・投資家等の皆様に、当社の経営方針・経営情報等をよりよくご理解いただくことを目的として作成しており、当社の株式の購入・売却など、株式等の投資を勧誘することを目的としたものではありません。したがって、皆様が実際に投資なさる際には、本情報に全面的に依拠して判断を下すのではなく、あくまでご自身で投資の可否をご判断くださいますよう、お願いいたします。